

# たにかし



## 教育活動評価アンケートの結果報告

校長 本橋 忠旗

### I : はじめに

節分を前にしながらも、厳しい寒さが続きます。もう少し辛抱しながら、訪れる春を待ちたいものです。

さて、昨年、杉並区教育委員会から配信されました保護者向け教育調査アンケート（杉並区教育活動評価アンケート）にご協力いただきましてありがとうございました。同じ時期に、併せて学校でも、児童向けにアンケート調査を行いました。

この度、その結果がまとまりましたのでご報告します。紙面の都合上、限られた範囲でのご報告となります。ご容赦ください。

### ① 保護者向けアンケートについて

保護者向けアンケート調査は、343家庭の内112家庭から回答（回答率32.6%）をいただきました。

例年「どちらともいえない」という回答の割合が高くなる傾向がありました。今回は、昨年よりその傾向が減少し、「とてもそう思う」の割合が増加しました。お子さんとの会話や学校行事、学校公開、保護者の方との日常的な連携から学校の取組が伝わったものだと思います。集計では、「肯定的な回答」「否定的な回答」としてまとめてありますが、今回は一部昨年度と数値の比較しながら報告します。また、保護者向けアンケートの内容は<保>と表しています。

### ② 児童向けアンケートについて

児童向けアンケート調査は、学校作成の「児童アンケート（1.2年生対象と3年生以上対象）」と杉並区教育委員会作成の「児童・意識実態調査（4年生以上で実施）」で行いました。杉並区教育委員会作成のものは、東京都教育委員会「児童・生徒の学力向上を図るための調査」に杉並区独自の質問を加えての実施となっています。なお、結果については項目を精選して取り上げています。特に学校作成のアンケートは、3年生以上の結果の数値を参考にしています。杉並区教育委員会作成のアンケートは<児・杉>と表して区内比と、学校独自のアンケートは、<児・学>と

表して昨年比と併せて記載しています。また、学校作成のアンケートでは、肯定的な回答で80%程度の状態を「概ね良好」と考えています。

### II : 教育調査アンケートのまとめ

令和7年度は、「みんなの幸せ（well-being）をつくる学校～多様な他者と協働して、未来を切り拓く児童～」をキーワードに以下の①～④の観点で教育活動を整理・価値付けしてきました。児童アンケート及び保護者アンケート結果について、それらの観点と関連する項目を取り上げながら振り返ります。アンケート結果の詳細は、ホームページに掲載いたします。

#### ① 児童が明るく前向きに学校生活を送るために（授業づくり・特別活動・心身の健康）

- <児・学>問1「学校に行くのが楽しい」で、肯定的な回答が84%（前年比+3%）となりました。
- <児・学>問2「学校の授業でわかることが増えている」で、肯定的な回答が85%（前年比同）となりました。
- <児・学>問4「クラスのみんなでの協働」で、84%の肯定的な回答となりました。
- <児・杉>問6・12「学習の進め方」で、肯定的な回答が問6:87.6%、問12:78.6%（区比+4.2%、+8.1%）となりました。
- <児・杉>問15「学習計画の立案」で、肯定的な回答が74.6%となり、（区比+5.1%）となりました。
- <保>問14「子供は学校生活を楽しんでいる」では、肯定的回答が74.1%（前年比-0.2%）となりましたが、「とてもそう思う」の項では、+4.2%となりました。
- <保>問12「子供が悩んだ時の支援」の肯定的な回答が50.9%（昨年比+15.7%）となりました。
- △ <児・杉>問7「集中して学習」で、肯定的な回答が81.1%（区比-3.9%）となりました。
- △ <児・杉>問21「仲間との協働」について、肯定的回答が75.1%（区比-2.1%）となりました。
- △ <児・学>問17～19「自己有用感」を問う設問で、肯定的な回答が問18・19では86%、90%、問17で77%となりました。（新設）

学校は児童にとって「楽しい場」でなくてはいけません。全体的には、良好な学校生活を送ることができたと考えられます。「学校に行くのが楽しい」と回答した児童が増加していることや保護者アンケートの中で、「子どもが悩んだ時の支援」についての数値が向上していることは、私たちにとって大きな励みとなります。

アンケート結果から、保護者の皆様には、学校のこれまでの様々な取組を通じて、児童の変容や成長を感じていただいており、今後も皆様とのこまめな連携や対話を重視していきたいと思っております。

一方で、「学校生活を楽しめていない」と感じていることもあります。児童が、学校生活を楽しめない要因として、学業不振、友達との関わり、集団生活への適応や参画等、自己有用感につながるものが考えられます。

学校生活の特徴は、「集団生活」となることから、学級・学年を中心とした児童間の「協働」にあります。「誰かの役に立ちたい」という意識の高さがうかがえることから、その思いを実現できる学級活動・学年活動、学校行事、学習活動の改善を図り、場の充実を図ることで自己肯定感を高めていく必要を感じます。

## ② 保護者と児童の成長を喜び合う信頼関係づくりのために（保護者連携・地域連携）

- <児・杉>問23「いじめへの意識」で、肯定的な回答が96.3%（区比+2.6%）となりました。
- <児・学>問7「ゲストティーチャーの活用」で肯定的な回答が86%となりました。
- <保>問1～3「学びと成長」の問1・2の「とてもそう思う」で、問1:27.7%（昨年比+6.9%）、問2:33.9%（+8.1%）となりました。問3についても、「ややそう思う」で、41.1%（昨年比+15.3%）となりました。
- <保>問4～5「人材と連携」の問4の人材活用において、「とてもそう思う」で22.3%（昨年比+6%）となりました。また異校種連携では、「ややそう思う」で、33.0%（昨年比+11.5%）となりました。
- <保>問8「いじめを許さないという雰囲気」で肯定的な回答が50.0%（昨年比+14.8%）となりました。
- <児・学>問16「困ったことを相談できる人の存在」で肯定的な回答が75%（昨年比-1%）となりました。

まず保護者アンケートの結果から、保護者の皆様が、ご家庭においてお子さんの成長や変容をよく観察し、十分なコミュニケーションをとっていることが分かりました。こうした関わりが児童の心理的安定や前向きな学校生活につながるものと考えられます。

次に、「いじめ」に対する児童の意識の高さや保護者の方からの評価について、早期対応、早期解決に取り組んできたことの成果と考え、心強く感じます。児童の学校生活における課題への対応は、その時々となります。まずは児童や保護者の方の声を聞く」ことを大切にして、今後もスピード感ある対応を心掛けていきたいと思います。

他に、人材活用、地域連携については、総合的な学習の時間を中心に数多く取り組んでいます。また、神明中学校をはじめ、近隣幼稚園・保育園との交流（教職員含）を行っていることも広く認められるようになってきたと感じます。こうした取組は児童への教育効果も高いことから、今後とも継続して行なっていきます。

最後に、児童が困ったときや不安な時の相談相手の存在の低さが気になります。5年生では、スクールカウンセラーとの全員面接を行なっていますが、定期アンケート等を活用して、児童の孤立感・孤独感を早期に救う取り組みの必要性を感じます。

## ③ 教職員の協働と指導力の向上のために

### （教職員の協働・指導力の向上）

- <児・学>問12・13「学習指導」で、肯定的な回答が問12:80%（前年比+7%）、問13:85%（前年比+8%）となりました。
- <児・杉>問17「学習内容を関連付けた指導」で、肯定的な回答が80.1%（区比+4.8%）となりました。
- <児・杉>問26「分からなことがあれば、先生が自分に合わせて教えてくれる」で、肯定的な回答が77.1%（区比+5.6%）となりました。
- △ <児・学>問6「多くの先生からの学び」で、肯定的な回答が77%となりました。
- △ <児・杉>問11「質問をして相手の考えを確かめている」で、肯定的な回答が59.2%（区比-4.1%）となりました。
- △ <児・杉>問14「他の人と相談して、考えを深めようとしている」で、肯定的な回答が67.7%（区比-4.5%）となりました。
- △ <児・杉>問25「学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学んでいる」で、肯定的な回答が77.6%（区比-4.4%）となりました。

児童の学びについては、「児童の集中力に関すること」「他者との意見交流を通じて理解を深めること」「学習の方法やペースを自分で選ぶこと」といった学習の進め方について改善が必要と考えられます。そのためには、問題解決学習を通じた当事者意識をもった児童の学びの質の向上やタブレット端末を活用した「個」と「協働」の学びのバランスの取れた指導、多くの先生（大人）からの学びの機会の創出や肯定的な関わりの充実を図っていく必要があると考えます。

特に今年度は、学年経営の充実を目的に交換授業を取り入れてきました。多くの先生との出会いがある一方で、学級担任の裁量時間が減ったり、時間割の複雑さが出てきたりすることがありました。しかし、学年経営の充実は今後も重要であることから、今年の実績を踏まえた指導体制を検討していきます。

#### ④ 学校・家庭・地域の協力関係の基礎づくりのために（開かれた学校づくり等）

- <児・杉>問3「学習の動機」について「将来の仕事や生活に役立つから」で、肯定的な回答が84.1%（区比+0.3%）となりました。
- <保>問10「オンライン化」の「とてもそう思う」で昨年比+13.4%となりました。
- △ <児・学>問20「街や地域への関心」で、肯定的な回答が76%となりました。
- △ <児・杉>問27「応援してくれる人の存在」で、肯定的な回答が85.5%（区比-5.8%）となりました。

児童の学びに関する意欲に「将来性」があります。学校では、その学習フィールドとして、「街や地域」を活用していますが、児童の肯定的な回答は76%となっています。

引き続き、地域人材や施設とのご協力を得ながら、各教科や総合的な学習を通じて、「社会参画」の意欲の向上につなげていくとともに、地域を支える皆様の存在に気付かせていく必要を感じます。

また、今年度は、これまで紙面回収としてきた、行事アンケートやアレルギー面談の希望調査も電子回収とするなど、配布物の電子化を進めてきました。アンケート回収については、電子化すると回収率が下がる傾向にあります。多くの方からのご意見をいただきながら改善を図りたく、今後ともご協力をお願いします。

\*\*\*\*\*

このアンケート結果は、学校運営協議会の皆様にも報告し、令和8年度の教育課程に活かしていきます。具体的な内容や取組については、学校だより3月臨時号でお知らせする予定です。

また、学校ホームページでは、学校生活日記を中心にお会い講話や地域行事の予定を随時更新していますので、今後もご覧ください。

引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力を何卒、よろしくお願い申し上げます。

教育活動アンケートの詳細に関しては、2/2以降、学校ホームページに掲載いたします。